

ミネソタ州立大学マンケート校研修報告書

派遣期間：2023年3月12日～3月27日

看護学部1年

53123040 上井ことみ

今回のミネソタ研修は、先生の付き添いも一緒にアメリカに行く仲間もおらず1人での挑戦ということで、期待と不安が入り混じった感覚で渡航日当日を迎えました。私の将来の夢は、海外で活躍する国際看護師として働くことです。そのためにも、日本国内だけでなくグローバルな広い視野を持って看護を見つめていきたいという思いからこの研修に応募しました。しかし英語への苦手意識が強くコンプレックスがあるため、今回の研修で通訳も日本人も全くいない状況は自分にとってとても大きな挑戦でした。研修期間中は自分の意思を思うように伝えられず何度も心が折れそうになりましたが、現地の先生方や学生のみなさんが支えてくださったおかげで無事に2週間乗り越えることができましたと感じています。

研修中は、数えきれないほどの貴重な経験をたくさんさせていただきました。見学させていただいた病院の一つに、ポンドクリニックという小さな診療所があります。そこは、医療保険未加入の人々、特に子どもに対して無償で予防接種や健康診断などの多くのヘルスサポートを提供しているクリニックです。事前に日米間の医療保険制度の違いや米国の医療制度の特徴を勉強して行きましたが、やはり自国以外の国の制度や仕組みはいくら勉強しても頭だけでは理解できません。そんな中で実際にこのような米国特有の医療のかたちを生で見るのができたことは、滅多に経験することができない体験でした。またポンドクリニックでは、ナースプラクティショナーの仕事も間近で見学することができました。ナースプラクティショナーとは、医師の指示を受けずに一定レベルの診断や治療などを行うことができる看護の資格であり、米国をはじめとする国の医療現場で活躍しています。ナースプラクティショナーは薬の処方ができるなど日本では認められていない医療行為も多く、今の日本の医療制度に取り入れていくことはまだ難しいかもしれませんが、医師が不足している地域などで医師の負担を軽減するという意味でも有用な資格ではないかと考えました。

米国の看護学生との交流を通して、日本との教育の違いに気づきました。マンケート校の看護学部での講義や演習への参加においては、学生全員が意欲的に授業に参加し、積極的に発言することで個々の意見を交換し合っていたことがとても印象に残っています。現地の学生の授業に対する姿勢に感銘を受け、大きな刺激になりました。自身の考えや知識を躊躇うことなく発言する積極性は、今後看護師として仕事をしていく中で非常に重要で

あると考えます。同じ看護学生として、受け身にならず自ら学ぼうとする意欲を持ち日々の授業を大切にしようと感じる良いきっかけとなりました。

2週間という短い期間ではあったものの、非常に実りある海外研修だったと感じています。これらのおかげがない経験を通して、自分の意志や思いを強く持ち、何事にも挑戦する姿勢を大切にしていきたいと思います。今年の6月にはミネソタから当大学に数名日本へ研修に来られるということで、ミネソタでの私の生活を支えてくださったことへの恩返しの意味も込めて、ボランティアとして積極的に参加したいと考えています。

最後に、私が研修に行くずっと前から何度もミーティングを重ね、現地での行動がよりスムーズになるように、より素晴らしい経験ができるようにと支えてくださった大阪医科大学の先生方とミネソタ州立大学マンケート校の先生方、現地で関わってくれた看護学部の学生の皆さんに大きな感謝を申し上げます。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

